

坂の上の雲をめざして

「いまからおもえばじつにこっけいなことに米と絹のほかに主要産業のないこの百姓国家の連中が、ヨーロッパ先進国とおなじ海軍をもとうとしたことである。陸軍も同様である。人口五千ほどの村が一流のプロ野球団をもとうとするようなもので、財政のなりたつはずはない。(中略)

政府も小世帯であり、ここに登場する陸海軍もそのように小さい。その町工場のように小さい国家のなかで、部分々々の義務と権能をもたされたスタッフたちは世帯が小さいがために思うぞんぶんにはたらき、その目的をうたがうことすら知らなかった。この時代のあかるさは、こういう**オプティミズム**樂天主義からきているのであろう。

このながい物語は、その史上類をない幸福な楽天家たちの物語である。やがてかれらは日露戦争というとほうもない大仕事に無我夢中でくびをつっこんでゆく。最終的には、このつまり百姓国家がもったこつけいなほどに楽天的な連中が、ヨーロッパにおけるもっともふるい大国の一つと対決し、どのようにふるまつたかということを書こうとおもっている。楽天家たちは、そのような時代人としての体質で、前をのみ見つめながらあるく。のぼっていく坂の上の青い天にもし一朶の白い雲がかがやいているとすれば、それをのみみつめて坂をのぼってゆくであろう。| (文章は原文のママの抜粋です／一朶とは、「ひとかたまり」)

(文章は原文のママの抜粋です／一朶とは、「ひとかたまり」)

楽天主義と言うのは、何もしなくてもどうにかなると言う考えではありません。自分の信じる道をひたすら進めば、必ず目的に達する。迷わず、よそ見をせず、やるべき事を一つ一つこなしながら進もうという考え方です。努力は必ず報われると信じる思いです。

皆さんも目標にむかってひたすら努力を続けてください。今は遠い目標でも、進み続ければ目標に近づきます。地道な努力こそが、成功への近道です。自分の目標を坂の上に掲げ、上り坂を登って行きましょう。辛く苦しい時も成功を信じて。

君たちはどう生きるか 大淘汰時代の大学選び

『週刊 東洋経済』2月10日号より

今はインターネットや情報誌などに、大学に関する情報があふれている。情報はたくさんあって選択肢が増えているように見えるがネット情報は玉石混淆で、スマートフォンで調べて分かった気になるのは危ない。いちばん大事なのは実際にキャンパスに足を運んでみることだ。

(中略) キャンパスでは購買部、特に書籍コーナーもチェックしてみよう。偏差値の低い大学は漫画本メインだったりする。どんな本が並べられているかを見れば、その大学の知的レベル、文化レベルを推し量ることができる。

二つ目に大事なのは、ネット上の大学関連情報や雑誌のランキングのたぐいは極力見ないこと。大学に関する情報を見るくらいなら勉強に集中したほうがよい。

教育熱心な親ほど、大学ランキングなどの数字に踊らされてしまう。しかし、子どもの志望校がどのレベルに位置づけられているかを大ざっぱに知る程度ならよいが、細かなランキングの上下を気にする必要はまったくない。親は自分の出身大学や受験経験のコンプレックスを反映し、つい感情的になってしまう。それらは「それは世間のうわさ話なのね」という程度に受け止めておくべきで、こうしたランキングに一喜一憂するのは有害無益だ。

受験生の親が気をつけるべき点は、自分が通った当時のイメージで子どもの大学選びを見ないこと。親世代が大学生活を送った30年前と今の大学はかなり異なる。(中略)1985年当時、大学入学者の2.5人に1人が浪人生だったが、2014年は7人に1人にすぎない。親の30年前のイメージで大学選びをするのは危険だ。

大学選びは子どもにとって人生で初めて、本格的に自分の人生の見通しを立て、おカネのことや**自分自身を冷静に見つめる**機会だ。大学に行けばどうにかなる時代はとっくの昔に終わつた。親子で学費や人生の見通しについて話し合ってみると、**将来のビジョンがうまく見えてくる**と、**勉強のモチベーションにもなる**。大学選びを大変だと思わず、これをむしろチャンスだとらえてみたらどうだろうか。

でも、苦しいときは逃げなさい

劇画の原作で有名な小池一夫氏の2月3日のツイッター書き込みが話題になっています。

体の不調は、医者と相談しながら治すことが出来るが、心がぶつ壊れたら、治療は年単位。いや、十年単位。心がぶつ壊れそうになったら、直ぐに逃げるのだ。逃げる体力と気力があるうちに。壊れてからでは、人生が変わる。

受験勉強の経験は、人生にプラスになると思います。でも、受験のプレッシャーや交友関係などで、耐えられなくなりそうな場合は、逃げても良いということも忘れずにいてください。文部科学省も「SOSの出し方」に関する教育を授業に位置づけるよう求めていました。

まずは、元気に毎日を送れることを最優先に考えましょう。